



YAMATO Nature Circle

2026年6月

葉画家・群馬直美のヤマトビオトープ園の葉っぱたち Vol.88

— 絵と文 群馬直美 —

困難に負けない《ツワブキ》

1年を通してつやつやした緑色の葉っぱで楽しませてくれるツワブキ。
冬のはじめ、いつの間にか真っ直ぐ伸びた花の茎の天辺に、黄色い花が咲く。
まるで葉っぱたちの希望の星みたいに咲く花をじつは前から描きたいと思っていた。
14年前、大病を患い手術直後の体力の落ちた体で一番最初に会いに行った絵のモデルが、ツワブキの花。
当時、『NHK俳句』のテキストに絵とエッセイの連載の仕事をしていて、
歳時記に冬の季語として登場する「石路の花」(つわのはな)を是非とも見たいと思ったのだ。
でも、その時の印象は、平凡な黄色い花だった……。
それから数年後、ヤマトビオトープ園で出会った「石路の花」の表情にびっくり。
萎れた舌状花に囲まれてくるくるしたものらが溢れかえっているではないか。
くるくるカールに魅せられ、枯れたツワブキの花を5倍に拡大して描いた。
それから7年経った昨年11月の終わり。
ヤマトビオトープ園で、黄色いツワブキの花に奇妙に惹きつけられ、
今回は実物と同じサイズで描いた。
中心に多数集まった小花は、まだつぼみの状態のもの、開花してオシベが伸び出したもの、
くるくるカールのメシベが出はじめたものが混在している。
花びらのように見える舌状花も、微妙な濃淡の陰影を醸し、
花の微細な表情が次々とわたしに襲いかかってくる。
「うわぁ、細かすぎて描けない!」どんどん絵の具が盛り上がり、石のような「石路の花」の絵になった。
一見平凡な黄色の花の絵だけれど、くじけそうになりながら描いた格闘のたまもの。
ツワブキの花言葉は、「困難に負けない」。



《表紙の絵》ツワブキの花

「やわらかな毛でおおわれた
柄と茎も魅力的。」

・ヤマトビオトープ園にて2025年11月25日採集
(作品の完成日は、2026年4月15日)

・紙(ファブリアーノ エキストラホワイト極細目)
/テンペラ・油絵の具

size:335mm×245mm

©Naomi Gumma

群馬直美 GUMMA NAOMI プロフィール

高崎市生まれ。1982年、東京造形大学絵画科卒業。在学中に新緑の美しさ、その生命力に深く癒された経験から、「葉っぱ」をテーマとする創作活動に入る。「葉っぱの精神—この世の中の一つ一つものは全て同じ価値があり光り輝く存在である」に則り、1991年テンペラで克明に描く現在の作風に至る。2006年より世田谷美術館「美術大学」で葉画講師として身近な葉の美しさ、素晴らしさを伝え続けている。2019年、『下仁田ネギの一生』の組み作品で、英国王立園芸協会主催植物画展で金賞及び最高賞受賞。著書に『言の葉 葉っぱ暦』『群馬直美の木の葉と木の実の美術館』『葉っぱ描命』『Dancing Vegetables 踊る野菜』他。東京都立川市在住。 <https://www.wood.jp/konoha/>